

「理不尽なルールなら」

宇土中学校 2 年 北野 晴子

私にはおかしいと思う決まりがあった。

小学 5 年生の夏休み、私は家でアニメを見たりテレビを見たりし、だらだら過ごしていた。母が「少しは外で遊んだら？」と言ってきたので、「はい」と言って、近くの公園に、ボールを持って妹と出かけた。しゃべりながら、2 時間ほどキャッチボールをして、家に帰った。

夏休みが終わり、始業式の日が来た。

始業式の途中で先生が、「残念なお話があります。」とおっしゃった。『誰かなにかしたのかな』と思っていた。続けて先生は、「公園で、キャッチボールをした人がいたそうです。非常に危険な行為です。今後、キャッチボールを始めとするボールを使う遊びを禁止します。」と言われた。

私はおどろいた。それになんだかショックだった。ボール遊び禁止の公園じゃなかったし、周りに小さい子もいないことを確認して、強くなげたり、ドッチボールみたいにしたりしたわけでもなかったのに。

ボール遊びのできる公園は少ないうえに、学校のルールで、学校のグラウンド以外では禁止になったり、広い敷地を見つけて遊んでいたら、人の敷地だと怒られたり。どんどん私達の居場所はなくなっていった。

「最近の子供は外で遊ばない」

確かにスマホとかゲーム機とか、面白い機械とかが増えたのが大きな原因の一つだと思う。しかし、遊ぶ場所が少ない上に、遊んではいけないというルールがあるのもまた、原因の一つであると思う。

公園でのボール遊びがあぶないこともわかる。けれど禁止にするのは違うんじゃないかと思う。禁止にするのではなく、細かくルールを決めたり、遊べる場所を増やしたりし、「あぶないから」ではなく、「あぶないなら」と改善できる方向にもっていかないといけないのではないだろうか。これは「ボール遊びのルール」だけでなく、社会のさまざまな理不尽なルールの改善につながると思う。

例えば、寒い冬に使うカイロは、授業中、ポケットからは出してはいけないという

決まり。でも、ポケットに手を入れて歩いたりするのは危ないので禁止。手が冷え、シャーペンにもぎれないくらいなのに。

この、カイロはポケットに入れて出さないというルールも、「投げたり、絵を書いたり、友達に貸したりしない。」といったルールをつくり、自分の手を温めるために使うのは認められても良さそうだ。

このカイロを使えるためのルールは、私がまだ考えているだけで実現していないが、私が変えたかったルール、いや私だけでなくみんなが変えたかったルールが、みんなの意見で変わったことがあった。

それは小学校のときのルールで、「シャーペン禁止」だ。

「なぜ中学生は使っているのに、小学生はダメなのか」とずっと思っていたが、そうはいっても、「どうせ、シャーペンは禁止のままだろう」と思っていた。けれど、私のクラスメイトの一人が声を上げてくれた。先生は、意見を受け止めてくれ、クラスで話し合い投票し、その後、計画委員会を中心にまた話し合い、「シャーペン禁止」のルールは変わった。高学年の5年生、6年生だけ使ってもよいとなった。意見を言えば、変わることに、ルールのつくられかたを学んだ。

今までの細かな、少しめんどくさいなと思っていたルールも、理不尽な1つのルールをなくすために作られたのかもしれない。ルールはやはり、守るべきものなのだと思う。

「人の意見に耳をかたむけること」、「禁止をなくすためにルールは作るべきだということ」の二つを守ると、世の中はもっと過ごしやすくなると思っている。

それぞれが考え、もっとよりよい社会を作っていこう。